

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092000019
法人名	医療法人 柳川滋恵会
事業所名	グループホーム春
所在地	福岡県西浜武1085-1
自己評価作成日	平成28年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成28年2月9日	評価結果確定日	平成28年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

西鉄柳川駅より車で10分位で、田園地帯にあり、静かな佇まいの左右対称の2ユニットである。敷地内には医療機関や介護老人保健施設があり非常時には連絡体制も整っている。昨年10月には医療法人の理事長である院長先生が自宅をホーム横に新築され、熱発や急変時には電話1本ですぐに診察に来られ本人、家族、職員共に安心して介護を受けられる環境になりました。地域保育園の慰問や月一回のボランティアのエレクトーン演奏等で交流を図りながら楽しく安心して生活を送れる地域に根付いたホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は洋風で温かみのある外観となっている。敷地内の母体医療機関とは緊急時の連携も図れており、安心して医療が受けられる環境である。また、隣接する老人保健施設と共同の勉強会を行い日々のケア向上に努めている。昨年、開設当初より掲げてきた理念を見直し、「住みなれた地域で心寄せ合い、のんびり楽しくその人らしく、家族の心でいつも笑顔でみなさんを支えています」という新たな独自の理念を作っている。その理念どおり、事業所内にはのんびりした時間が流れ、居室は全て畳敷きで、利用者の状態に合わせて手すりやベッド周辺の工夫などがされており、落ち着いて過ごすことができるようになっている。また、職員間のチームワークも良好で、雰囲気の良い明るく落ち着いて過ごせる事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で家族のような気持ちで支え合う理念を揚げ全職員が理念を深く理解する為、一日二回ホーム理念と接遇心得を唱和している。	昨年見直した新たな理念と、曜日ごとに設定された接遇心得を朝礼時と昼の申し送り時に唱和し、常に忘れないよう意識づけている。そのため、事業所内には理念通りゆったりとした時間が流れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は少ないが月一回のエレクトーン演奏や保育園児の訪問交流、法人内での慰問を見学し入居者と地域の交流を継続している。	ボランティアの演奏会や保育園児の訪問などの交流がある。町内会には加入していないが、地区の廃品回収などには参加している。また、散歩に出かけた際には近所の方へ挨拶したり、会話したりしている。	ボランティアの訪問や廃品回収の参加などでの交流は行われているが、今後は町内会の加入や独自の催し物を開催して地域の方を招くなど、地域の一員として更なる日常的な繋がりができるように期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は認知症の方の意向や思い理解等支援している実態を、イベントや行事等を通じて地域の方達との交流を深めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回様々な報告をさせて頂きながら、現場での大変さも理解してもらっている。参加者からの多数のご意見をサービス向上に活かせるよう努めている。	会議には区長、民生委員、老人会会長、各ユニットの家族会会長、市の担当者が参加しており、事業所の現状を報告している。また、事業所の外へ出て行きたがる利用者の状況報告も行っており、安全面を重視して日中は止む無く、玄関を施錠することに会議の中で理解を求めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回行政職員が参加しており、運営上の疑問点やサービス提供の相談等日頃より連携を取り、協力関係を築いている。	不明な点などは市の担当者へ電話で確認したり、直接出向いたりして相談し、その都度解決している。運営推進会議にも毎回参加してもらい、顔を合わせているため、相談しやすく良好な協力関係を築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会の年間計画に取り込み正しい理解に努めている。夜間不穏や外出傾向のある入居者もあり、その場に応じた対応や見守り、かかりつけ医に同行して状況報告しながら内服薬等の支援をしている。	内部研修で身体拘束をしないケアについての正しい理解を図っている。事業所の外へ出て行きたがる利用者の安全確保のため、玄関を施錠することもある。点滴が必要な利用者には、職員が付き添い、手指の機能を制限しないように対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会を重ね全職員への周知徹底に努めている。又日常的に虐待が見逃される事がないように、協働して防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会にて理解を深めている。現在成年後見制度継続中の利用者様がおられる。	入居後、成年後見制度の申請を開始し、現在1名の制度利用者がいる。パンフレットも常備しており、職員へは分かりやすく漫画となっている冊子で理解を深めている。	内部の研修会で理解を深めてはいるが、日常生活自立支援事業と成年後見制度の違いなどをしっかり理解し、活用できるように外部研修への参加や職員への周知徹底に期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族にとって重要な事なので入所の際分かりやすく説明するように心掛けている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議又面会時に話をする機会を設けている。意見があればカンファレンスで話し合い、日々のケアに活かしている。	意見箱や訪問時、家族会開催時のアンケートなどで意見を把握するようにしている。また、意見を言いにくい場合などを想定し、別窓口の案内も掲示している。出された意見より、職員の顔写真と名前を掲示するなど運営に反映している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が働きやすい職場となるよう日頃のコミュニケーションを心掛けている。カンファやユニット会議で意見や提案を検討してケアの充実に努めている。	ユニット会議やミニカンファレンス、申し送り時、アンケートなどで、意見を聞く機会を設けている。公休や有給休暇などの希望もきちんと調整されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は法人内で働く全職員の就業環境の整備に努めている。各自がやりがいをもって働く事がサービスの向上に繋がるという思いである。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用時はまず本人と面接をされている。介護現場で働く意欲や人柄を重視しており、性別や年齢等で除外されるような事はない。研修参加や資格習得等、自己実現に繋がるよう勤務調整する等配慮している。	性別や年齢の制限はなく採用を行っており、現在25歳から66歳の職員が勤務している。歌や貼り絵などの特技をレクリエーションに生かすことができている。また、希望研修の参加や資格取得のための勤務調整を行い、自己実現できるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重の為「接遇心得」と「ホーム理念」を重複し職員の人権教育に取り組んでいる。	内部研修や系列施設での合同研修会に参加して理解を深めている。研修会で使用した資料を職員にも配布し、周知、統一を図り啓発活動に取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップはサービスの質の向上に繋がるから、各自の力量に合わせて出来る限り研修参加の機会を確保している。研修会場も遠いので、参加は少ない状況である。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じてネットワークも広がっているが、相互訪問には至っていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	どんな状況においても、事業所として本人の気持ちを十分に聞いて、受け止めている。不安なく納得して入所できるように努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者が緊急時や重篤な場合の家族の意向は早い時期に聞く機会をもつよにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者へのサービスが不足しないように又適切な支援を見極める為に他機関と連携を図っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は共に過ごす事で利用者への理解を深め、信頼関係を築き支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の立場や思いを理解して、双方で情報を共有し協力して支援している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今までの暮らしを忘れないように、近隣へのドライブや行事参加ボランティアの受け入れ等を支援している。又家族も面会、外出に努力されている。	馴染みのある沖端水天宮や風浪宮へ出かけたり、自宅周辺をドライブしたりと馴染みのある場所との関係が途切れないよう支援している。また、地域情報誌の有明新報を見てもらい、地域とのつながりを感じてもらえるよう工夫している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が共に暮らしを楽しんでおられるか、利用者同士の交流は上手く行っているか見守り支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も遠慮なく相談されるように、説明し関係継続のつき合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の日頃の行動や表情から思いや意向が見える場合が多いので、本人のサインを見逃さないように努めている。	ケアの中から本音を聞きとり、日常の行動を観察して仕草、表情を見ながら思いを把握している。困難な場合は家族から思いを聞き、本人本位に検討を行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしぶりや生活歴を把握し安心して自分らしく、生活して頂くように日常的に情報収集を図っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態や生活リズムを把握し、出来る力、分かる力を発見し本人の強みを活かした生活が出来るように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まずは、本人と十分に向かい合い現状を把握している。関係者、職員の意見を反映して作成している。	利用者の思いや家族の希望、職員や主治医の意見などを取り込んで介護計画を作成している。モニタリングは職員1名につき2名程を担当し、個別に確認している。状態変化時は、その都度見直しを行い、変更している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の健康管理や状態観察、暮らしの中での気づきは看介護日誌に記録し、職員間で情報を共有し、現場での実践や介護計画の見直しに活用している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化でニーズも変化するので医療と連携した受診支援や、ホームの看護師による治療体制等ホームで出来る柔軟な支援体制を図っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて地域の方と協力している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に説明し、希望されるかかりつけ医に納得して頂いている。適切な医療受診が出来るように支援している。	利用者、家族の希望によりかかりつけ医を決めている。専門医の受診は家族の協力のもと受診支援を行っている。緊急時には、母体医療機関で対応し、かかりつけ医との連携も充分図っている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医や医療機関と連携を取り、健康管理や早期発見に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族は入院中や退院後の事も不安になられるので、お見舞いに行き職員は顔を見せている。必要時は病院関係者と情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢者は急速に重度化するので、医師からの説明は早い段階でおこなわれる。医師の指示のもと事業所の方針は共有し、最善を尽くしてケアを実施している。	入居時に看取りについての意向を必ず確認している。重度化した場合は、医師、家族、事業所で充分に話合っ方針を共有している。昨年は4名の看取り経験がある。事業所には家族も泊まれるようになっており、看取りの体制は整っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特に発生しやすい感染症や事故発生時の対応については、定期的に知識と技術習得の勉強会を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を年2回、昼、夜間を想定し利用者も参加して避難訓練を実施している。消防署、警備保障、法人内施設に連絡し協力して頂いてる。	避難訓練では、敷地内の母体医療機関、老人保健施設、近隣のガソリンスタンドの社長や警備会社からも協力を得ている。飲料水や非常食の備品も準備されている。職員は、日頃から様々な災害時の避難方法をシュミレーションし緊急時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保は職員全員が周知している。特に入浴や排泄時の対応等十分に配慮している。	毎日の朝礼時や申し送り時に曜日で設定された接遇心得を唱和し、職員間の意識を高めている。トイレの誘導時はさりげなく小さな声で行い、特に言葉使いには充分注意している。利用者の写真を使用する際は同意書を得ているなど、利用者のプライバシーに配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に本人の分かる力に働きかけている。本人の思いや希望をくみ取り、自己決定出来るように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースや希望がある方は自由に過ごされている。その他の利用者様も個々のペースを大切にして寄り添い支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容サービスは定期的に利用されいつも小綺麗にされている。季節に応じた服装で行事やイベント等はお化粧したりして、いつまでもおしゃれ心を維持出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は食事のつぎ分けや、後片付け等簡単なお手伝いをしてもらっていたが、機能レベル低下により、難しくなられた。利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。	おかずは隣接する老人保健施設の厨房で管理栄養士の下で調理され、ご飯と汁物は事業所で調理している。また、職員も一緒に食事をしたり、ゼリーやドーナツなどのおやつを手作りし、食事を楽めるよう工夫している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が必要な栄養バランスを提供している。食事量、水分チェックを行い状態や習慣に応じて支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ見守りして実施されるも不十分であり、介助して口腔内の清潔を保持している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い失敗やパット内失禁の軽減に努めている。オムツ使用については慎重に検討し、家族に説明している。	排泄チェック表に、排泄量、水分量、食事量を一括して記入することができ、一人ひとりの排泄パターンを把握し、職員間で共有できるようになっている。1ユニットに3箇所のトイレがあり、日中はトイレへ誘導し、オムツを外せるよう支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事献立、水分補給、体操やレク活動等で運動を働きかけている。排便チェックを詳細に行い、内服のコントロールにより、便秘の予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	気温の高い午後から入浴を実施している。一人ずつゆっくり入浴されている。拒否があった場合は時間をおいて入浴してもらい、身体の清潔保持と気持ちいい入浴を支援している。	週2回の入浴となっているが、希望によって個々に応じたシャワー浴や足浴などで支援している。利用者が入浴を拒否した場合は曜日や時間を変えて対応している。今後、週3回ほど入浴できるよう前向きに検討している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は短い休息を入れている。出来る限り日課を充実し、夜間良眠に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用法についてはある程度理解しているが、分からない時は文献で確認し服薬の支援に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	負担にならないような、本人の力に合わせた役割をお願いしている。面会や短時間の外出は大きな楽しみや、気分転換になっている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて外出の機会を作り、近隣へのドライブ、散歩等行っている。家族の協力があり、本人外出や外泊希望を支援されている。	気候が良く暖かい日は、近くのお地藏様への散歩や花を見に出かけている。また、初詣などの季節行事で外出したり、自宅周辺までドライブに出かけたり、日常的に気分転換ができるよう図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「これはいくらですか」「いくら払うですか」等の発語はあるが、実際お金を使う事や管理する事は困難で、時々被害妄想がある。現在一人から預かり家族が確認されている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は対応しており、職員はプライバシーに配慮している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、明るく清潔で不快な音や臭い等がないように努めている。台所は対面式で、カレンダーや行事に参加した時等の写真を貼り会話のきっかけを作っている。	共有空間は広く、照明の色は暖かみを感じる。キッチン是对面式で、水の音や調理の匂いで家庭的な雰囲気がある。壁の装飾は季節感のあるものになっている。手すりの形状や光の取り入れ方、休憩スペースなど、様々な場所で工夫が見られる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で思い思いに過ごしておられる時は、安全面に気をつけて見守りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の進行と共に被害妄想や、転倒の危険性があり、本人が使いなれたものを仕舞い込む状況が目立っている。家族にも説明している。居室はシンプルである。	居室は全室畳となっている。ベッドも個々の状態に合わせ、介護用ベッドや木枠のベッドで対応している。利用者の個性や生活習慣に合わせ、家族の写真や孫からの手紙などが飾られており、使い慣れた時計やタンスなども持ち込まれている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、廊下の手すりやホーム内全てバリアフリーである。安全面気をつけて自立した生活が出来るように工夫している。		